

教皇、映画内インタビューで

同性カップルの法的保護を支持

伝統的な結婚の堅持は擁護貫く

【バチカン10月21日CNS】教皇フランシスコはこれまで何度か、同性愛のカップルも含めて、「シビルユニオン」(パートナー間の法的権利を認める制度)についての法整備で、当事者の権利を擁護する考え方への理解を示してきた。

最新のドキュメンタリー映画『フランチェスコ』の中の教皇の短いコメントは、アルゼンチン・ブエノスアイレス教区大司教時代に示していた姿勢に通じるものがある。教皇就任後のインタビューでも、何度か同様の見方を示している。「結

婚」は男女間だけで成立するが、「シビルユニオン」に関する法規は、長期に誠実な関係を保っているカップルを法的に保護できるといふものだ。

映画の中で教皇フランシスコはスペイン語で明言している。「同性愛の人々には、家庭にいる権利がありません。その人たちは神の子どもであり、家族をもつ権利があります。私たちがなくてはならないのは、シビルユニオンについての法整備です。そうして、その人たちは法的に保護されるのです。私はそのことを支持してきました」

「同性婚について言及するのは矛盾することになります。」ただ教皇は、その際に、「同性愛の人々には家庭にいる権利があり、両親には息子または娘を同性愛者として認める権利があるのです。誰もが家庭から追い出されたり、生きていくことが難しくされたりすることがあってはいけません」



式典中に指輪を交換する同性カップル(CNS)

メキシコのテレビによるインタビューでは、アルゼンチン時代に同性婚に反対していたことと、教皇としてはLGBT(性的マイノリティ)の人々に理解を示していることについて質問された。

「私は常に、教義を擁護してきました」と教皇は答えている。

「私は常に、教義を擁護してきました」と教皇は答えている。

「私は常に、教義を擁護してきました」と教皇は答えている。

「私は常に、教義を擁護してきました」と教皇は答えている。

映画は10月21日、ローマ映画祭で初めて上映された。

教皇フランシスコは公の場で繰り返し、両親は同性愛の子どもを

「私は常に、教義を擁護してきました」と教皇は答えている。

公の場で繰り返し、両親は同性愛の子どもを

「私は常に、教義を擁護してきました」と教皇は答えている。

「私は常に、教義を擁護してきました」と教皇は答えている。